

認知症と歯の関係

博愛会通信

『認知症』社会問題になっていますね

厚生労働省は2025年には65歳以上の5人に1人、約730万人が認知症になると試算しています。認知症の発症には**脳血流量**が大きく関わっているようです。

こんな興味深いデータがあります。

東北大学大学院のグループが70歳以上を対象に行った調査によると「脳が健康な人」の残存歯は14・9本でしたが「認知症疑いあり」と診断された人は9・4本でした。

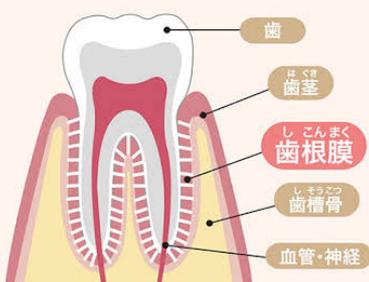
つまり残ってる歯が少ない人ほど認知症になりやすいということです。どういう事でしょうか？歯の下には歯根膜というクッションがあって、物を噛むたびにこのクッションに加わる圧力が血流を勢い良くさせるポンプのような役割を果たし、脳に血液を送り込みます。ですから、歯がたくさん残っている人ほど脳血流量が多く認知症になりにくいということです。

令和4年
6月号

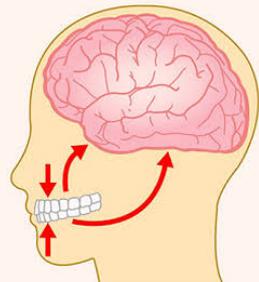


医療法人社団 博愛会
平岸駅前こまち歯科

歯根膜と脳血流の関係



「歯根膜」は、歯と歯槽骨の間にあるクッションのような器官。



ひと噛みごとに歯根膜のポンプ効果で、3.5mlの血液が流れ込む。

(出典)『脳の老化を止めなければ 歯を守りなさい!』(長谷川彌蔵/かんき出版)

**認知症にならない為に、
定期検診で歯周病を予防
して沢山の歯を温存して
いきましょう!**

こんにちは、歯科医師の船戸です。
今年はラニーニャ現象によって酷暑になるのではないかとされています。
こまめに水分補給して、熱中症にならないように気をつけましょう。スポーツドリンクをちびちび飲むのは、虫歯のリスクがぐーんと上がってしまうので要注意!

こんにちは! 衛生士の丹羽です
北海道がとても良い季節になってきましたね♪
今年は、バジルを種から発芽させました!
いっぱい出過ぎて友達に配ってます。
植物が育つのを見るのは癒されます(^ ^)